

ちょっと ブレイク しませんか?



第 35 回 「アマデウス」 (1984年米国)

<お詫び>

第34回「ローマ法王の休日」で「豹と山羊」と記すべきところ「豹と八木」と誤記。羊に山が付くとヤギと知らずお詫び致します。

イソップ寓話に「蜜蜂とゼウス」と題する小話がある。

蜜蜂が自分の蜜を人間に与えるのが惜しくなったので、ゼウスの所へ行くと、蜂の巣に近づく者を針で刺し殺す力を授けて下さい、と願った。ゼウスはその嫉み心に腹をたてて、蜜蜂が人を刺すと、針が抜け、続いて命も失わねばならぬようにした。

1825年の冬の夜、一人の老人が精神病院で神父に告白を始めた。皇帝ヨーゼフ2世の信望を集めていた維
ン
納の宮廷作曲家サリエリは、ある宴席で奇声を発し若い女に下卑た言葉を浴びせる男を目にする。その男がなん
と宮廷作曲家に登用されるアマデウスだった。サリエリが恭しく謹呈した行進曲をモーツァルトは即興で演奏して
しまう。神を尊敬し敬虔な生活を送る自分に神は才能を与えず、下品なモーツァルトに神が無二の才能を与えたこ
とでサリエリは嫉妬の炎を燃やす。モーツァルトの新作歌劇初演や演奏活動への妨害工作、さらにモーツァルト自
身の浪費癖などで、モーツァルト家計は火の車。そんなさなか、モーツァルトの父が死去。歌劇「ドン・ジョヴァン
ニ」の初演を見て、モーツァルトが父への罪の意識に怯えていることを知ったサリエリは、謀略を思いつく。サリエ
リはモーツァルトには「今、黒い服を着た使者が来た。翌朝までに鎮魂歌を完成させれば、さらに大金を支払うそう
だ」と伝える。サリエリは、モーツァルトの口ずさむ鎮魂歌を必死に写譜するが、あまりの速さと豊かで自由な楽想
について行けない。モーツァルトの才能に魅せられたサリエリは、モーツァルトの意思を尊重しようとする。コンス
タンツェは涙ながらにモーツァルトに悪い妻だったことを詫びるが…すでにモーツァルトは事切れ、その遺体は
共同墓地でゴミのように投げ捨てられる。

エンディングで最初のシーンに戻りサリエリの「わたしは凡庸なる者の王だ。世界中の凡庸なる者たちよ、わた
しはおまえたちを許そう」との独白が続く。精神病院に入院し生ける屍となった老人サリエリの回想から始まるイ
ントロだったが、宮廷で音楽が生まれ、庶民にも歌劇が愛される普及浸透する様子も描かれ、二百年愛されている
モーツァルトの世界に魅了される傑作でもあった。

蒸し暑い夏も過ぎ、文化の季節がやってきた。1984年のオスカーを総な
めにした「アマデウス」、主演男優賞はサリエリ役だった。私生活は乱れてい
ても仕事は一流という人物に遭遇することがある。謹厳実直さをモットーとする
儒教文化の国では、仕事の出来栄の前に品性が問われる。仏蘭西との大き
な違いだ。

さて、上司が部下より人格的に優れている訳でもなく常に正しいとも限ら
ない。非凡な部下に凡庸な上司はどう接したら良いのか。嫉み心を強く戒める
イソップ寓話も「アマデウス」の教訓は二十一世紀になっても浸透してい
ない。嫉みの克服はダイバーシティ尊重を謳う二十一世紀の課題となっている。



かゆ かわ ゆう へい
彌川 裕平
(精神科医・映画評論家)

名古屋工業大学 名誉教授
かゆかわクリニック院長